

カラダココロゲンキ

Chai



MEDICAL

チャイメディカル

JULY

2008

Thursday

発行日:奇数月の第3木曜日
 発行形態:フリーペーパーChai内4ページ
 編集に関するお問い合わせ:
 Chai編集部 ☎0155・24・4448
 広告に関するお問い合わせ:
 十勝毎日新聞広告局 ☎0155・23・2323

index

特集

P11

メディカルチャー 白衣の戦士
「ここ十勝の人たちに、クオリティの高い歯科技術を提供したい。」

いのうえ歯科院長・井上裕之先生

質問代行! P12

ホットぶれいく P12
 十勝ごぼう珈琲

BOOKS P12
 笑う介護。

オンナの健康講座 P13
 「間違った食生活をしていませんか？」

HOT ITEM P14
 レッグセルローラー・ニコチネルパッチ

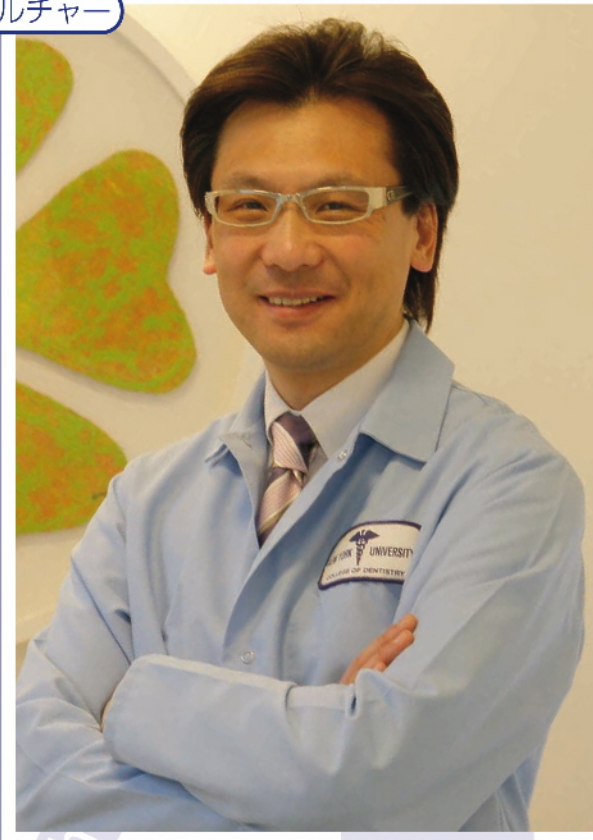
MENU P14
 メタボブレンド

ここ十勝の人たちに、クオリティの高い

歯科技術を提供したい。

メディカルチャー

白衣の戦士



今月のドクター

医療法人社団/
いのうえ歯科医院

井上 裕之さん

1963年生まれ、帯広出身。O型。
 1992年東京歯科大学大学院(歯科補綴学専攻)歯学博士修了。1994年帯広にて開業。2002年より東京歯科大学の非常勤講師、2003年より北海道医療大学の非常勤講師を始め、2008年には島根大学医学部臨床教授・フカレスト大学医学部客員講師に就任、国際口腔インプラント学会(ICOI)指導医となり現在に至る。2003年には日本人初としてニューヨーク大学のインプラントCDEプログラム科を卒業。その後は経営学博士(DBA)取得や、医療人として初の日本産業心理コンサルティング協会認定コンサルタントの資格を取得。さらに満口メンタルセラピストスクール公認エグゼクティブコーチとしても活躍中。歯科領域はしかることながら、心理学や人間学、マーケティングなどの知識を養い、患者さんやスタッフとのコミュニケーションづくりに生かしている。

「多くの患者さんに喜んでいただければ」と、優しい笑顔で語る、いのうえ歯科院長・井上裕之先生。十勝の人々に最高の歯科医療を提供するために常に学びを欠かさない。世界各国を飛び回り、セミナーや講演に参加、最新歯科技術をはじめ、最良のコミュニケーション術を常に磨いている。

また、ほぼ毎日ブログを更新し、多様なテーマでさまざまな見解を見せているが、それは多くの方にパーソナリティを知ってもらうため。「とにかくプライオリティは患者さん」という先生の素顔を少し覗かせていただこう。

自信と学びの大切さを知った大学院時代

「物心ついたころから人の役に立つ職に就きたいと思っていましたね」という井上先生が、歯科医師というポジションを自身のビジョンとし、まい進するきっかけとなったのは大学院時代。

当時、6~7年かけて修了するのが一般的と言われていた大学院課程を、「4年で必ず終わらせる」と決意し、猛勉強。そして見事に4年でその高いハードルを越えた。その時に「人は本気でやれば何でもできる」という大きな自信と、「学び」の大切さを知った。

その後も歯科医の勤務を重ね、毎週末はさまざまなセミナーに出席。通勤電車の中でも繰り返しセミナーの録音を聞きながら学び、使える時間をフルに活用してエネルギーを費やした。学ぶことは常に自身の価値を見出し、すべての大きな自信につながると先生は言う。

最先端の技術と最良のコミュニケーション

高度な手術に対応できる衛生環境や最新機器、大学教授との手術セッションや、国内有数の年間インプラント症例数、海外でのレクチャーや講演などから得た国際歯科学会の医療知識、そして自らが考案した画期的な入れ歯システムなど、その技術やシステムは世界のトップレベルといっても過言ではない。

また、人間学や心理学なども学び、セラピストとしての顔も持つ井上先生だが、それもすべては患者さんのため。

「信頼感の持てるコミュニケーションを築かなければ良い治療はできません。治療過程で患者さんとのコミュニケーションを深め、うまくキャッチボールできるようになることが第一歩です」と。そんな先生が一番うれしく思うのは「先生にはいつまでも健康でいてほしい」という患者さんからの気遣い。

人間味溢れる優しさ

セミナーや講演のため、国内をはじめ、世界各国を飛び回る井上先生。その超人的なパワーを支えているのが、信頼できるスタッフや仕事上でのパートナー、そして家族。どんなに忙しくてもスタッフやパートナーとのコミュニケーションは欠かさないように努力している。

また、近々一冊の本を出版する予定であるが、その内容は自身の家族を襲った大きな出来事を綴った実話で、大きな障害を乗り越え、それを克服していく先生と家族の姿と深い絆が描かれている。

その経験からも大きな学びを得たという先生、その時々感情を本音で表現し、自らがさまざまなことに気づき、学んでいく姿を赤裸々につづっている。

そんな飾らない正直な姿からは人間味溢れる優しさが伝わってくる。